

働く男のライフスタイル情報紙

Biz Life Style [ビズスタ仙台]

2019 09

特別版

『BizLifeStyle』は東京、名古屋、関西、京都、仙台、福岡、広島にて55.4万部発行
下記URLまでアクセスを。

www.biz-s.jp

広告掲載に関するお問い合わせ・申し込みは
TEL.022-716-1711 FAX.022-716-1710
<https://www.dac-group.co.jp>

企画・制作/株式会社ディリー・インフォメーション東北支社
〒980-0021 宮城県仙台市青葉区中央2-9-27 プライムスクエア広瀬通14F
© 2019 DAILY ADVERTISING AGENCY CO.,LTD



革新のマツダ、いよいよ「新章」へ!

アクセラは『MAZDA3』へ、アテンザは『MAZDA6』へ。マツダ、大胆極まりない車名変更を導入!

信号待ちの交差点で、複合施設の駐車場。この数年、とにかく「マツダ」のロゴが目立つことにお気付きだろうか。自動車登録台数などのデータ以上に存在感を発揮しているのは、決して気のせいではない。現在のマツダを象徴する次世代自動車製造技術の「スカイアクティブ・テクノロジー」、新たなシボルとして極めて高い評価を獲得した「魂動デザイン」。近年のマツダから発信される無言のメッセージは、特に車に詳しくなくても肌感覚で分かるほど、新機軸感に満ちあふれている。

看板車種のネーミングを「社名+数字」に統一へ

この夏のマツダ車は、各種カーメディアの話題的となつている。というのも、各カテゴリのベストセラーとして馴染み深かったメイソンの名称を次々と変更しているからだ。

デミオが「マツダ2」へ、アクセラは「マツダ3」へ、そしてアテンザから「マツダ6」へ。今夏の発表をまとめるとうなるが、各車種が新しく生まれ変わったのを機に、グローバルでの呼称を社名と数字の組み合わせに統一したのは、「マツダ車を選んで欲しい」とい

う想いを明確に表現するものだ。各分野の固有の車名が消滅することは寂しいが、同時に、磨きがかかっている一方の自動車製造技術が、続々と新世代車に反映されていくのだという期待感も覚える。車種個別の魅力はもちろん、ブランド全体が発散する価値をグローバル市場で共有する。これからは、そんな時代に突入するわけだ。

さて、ミドルエイジのビジネスパーソンなら、注目度はマツダ3とマツダ6だろう。マツダ3は、新型ワイドレンジ「スカイアクティブX」を投入した待望の次世代モデル。欧州市場で展開するハイオクガソリン推奨車が大反響を呼んだことから、国内発売を若干ずらすという嬉しい悲鳴をあげている今夏話題の車種のひとつだ。マツダ6は、年次改良と車種名変更を機に新設された2.5リッターガソリンターボエンジンのスポーツテイグレイドが話題的だ。「人馬一体」を標榜するブランドの現在を象徴するフラッグシップだが、高度な技術力に加えて相変わらず健在の新規提案性が「マツダらしさ」を表現する。

妥協をよとせず、独立独歩の新展開で自動車市場を沸かせるマツダ。そこで今回は、マツダ3とマツダ6のアウトラインを短時間で俯瞰。次代へと突き進む自動車メーカーの魅力に迫ってみよう。

次世代感に満ちた『MAZDA3』、圧倒的な完成度の『MAZDA6』…各車の最新情報は次ページで!



「ここにしたのだから、いや、そこもやるか。」
 誰かから「次世代感に覆われた、注目の新モデル。詳しくは店頭で実感された。」
人馬一体、走る歓び…自動車の製造思想の到達点 マツダ3の驚異の完成度
 洗練された躍動感と、大人の感性に響くエレガンスの薫り。マツダ車独特の低く構えた重厚なフォルム、精神な表情を湛えるフロントフェイス。マツダ3が強烈な次世代感な、旧アテンサマツダ(旧)は、走る歓びと環境性能の高次元における融合を自指したマツダの車づくりの完成形と言える。令和元年現在の自動車製造技術の高みを体現するコラクションだ。

その成感には、エンジンやステアリングのレスポンスからスタートアップまで、あらゆる要素に及ぶ。とにかくクルマを所有し、運転する楽しさを追求したい。この設計者やエンジニアたちの欲求が伝わってくる出来栄なのだ。特にスポーツタイプの欧州車を検討したい層には、オルタナティブかつ有力な選択肢と成り得る。大人が悠然と駆るドライバースカーとしてより一層パワフルな走りを目指す層へも、その姿は、エンジンサウンドから目と鼻の先で感じられる。

セダンとワゴンそれぞれに3タイプのエンジン、全14種のパリアエンジンが用意されているが、いずれもマツダが標榜する「人馬一体の走り」の頂点を味わえる仕上がりとなっている。ここでは、新たに追加設定されたスポーツグレード注目例に取ってみよう。2.5リッターガソリンターボエンジン「スカイアクティブ G 2.5T」と、それを

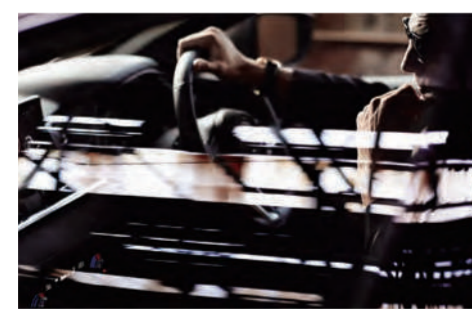
近年のマツダ人気は、ここに源泉があるのか。豊かなレスポンスと環境性能を両立するエンジン、取り回しやすさとスポーティな佇まいをともに満たす操縦感、成熟した大人の上質とチャレンジ的なアート志向を同時に伝えるデザイン力。どの側面を切り出していても、常に表裏の二面性を湛えている。最近のマツダ車の突破力を見るにつけ、そんな感想を持つ人も多いのではないだろうか。

今夏の話話をさらしている新生「マツダ3」では、そんな両面性が強烈に輝いている。いまやマツダの代名詞ともなった美しい世界観と、爽快でスポーティなドライビングタイムを堪能できるセダンと、ハッチバックという異なる舞台に均質的に体現するといのは並大抵ではない。それは、エンジンを筆頭とした自動車の構成要素のすべてを内包する次世代車構造技術「スカイアクティブ」のロジックの現在地を、はきりと示すものだ。

マツダ3の登場を祝うように、ついに投入された新エンジン「スカイアクティブ」

「昨年の東京モーターショーで「フロント」モデルが披露されてから約1年半。4ドアセダンと5ドアの「フラストバック」というラインナップ上の基本構成はあくまで継承しているが、単なる車名変更ではなく新車種と考えてよいだろう。

最も大きなポイントは、次世代ガソリンエンジン「スカイアクティブ」搭載モデルが登場した点だ。ハイパー・ガソリンエンジンとして高回転域までストレスなくくへ回るにも関わらず、まるで良質な「アイセル」エンジンのようにレスポンスと経済性を実現。その背景には、両者の



軸とした「26 T-Sパッケージ」は、マツダが推進するスカイアクティブテクノロジーでもひとつの記念碑的な成果と安んずる。ファイナルキア比は加速重視の仕様で、大径フロントブレーキで制動力をさらに強化。ルックスも刺激的で、ホイールはブラック塗装。インテリアはブラックレザーを専用設定して組み込むなど、期待するなと言った方が恰なるほどの高揚感を表現する。

そのほか、走りを中心に細かい「フィニッシュ」が施されている。安心の車両運動制御技術「G-ベクタリングコントロール」が全グレードの標準設定となり、駆動力の適切な配分に働きかける先進のAWDシステムとともに「人馬一体」といって走るコンセプトが、洗練された形に、また「マツダ」ネットワークへの対応機能追加のほか、従来の紫外線に加えて赤外線まで配慮された「Rカットガラス」なども用意されているので、検討時はぜひ「オン」にまで詳しくチェックしたい。

マツダが謳う「コラクション」のひとつの到達点とも言え、マツダ3の完成度、大人の愉しみとしての走りの実際は、次ページで紹介する各店舗で体感してほしい。

特性を取り出す形で設計された内燃機関がある。火花点火制御、圧縮着火と銘打たれた燃焼方式は、世界初採用の意欲作。前述の通り、欧州で評判を呼んだハイオクガソリン推奨への対応のために納車時期を調整するなど、発売前から人気の予感が広がっている。

デザイン、インテリア、さらには「音」にまで及ぶ革新性

期待に違わぬ走行感。来るべき試乗機会に譲るとして、ここでは美観の角度から見てみよう。まず、原則として面構成するデザインが素晴らしい出来。日本の伝統工芸を思わせる魂動「デザイン」の最新作は、今春にドイツで開かれた「フランクフルト・オートショー」で「ベスト・オブ・ベスト」オプティメット賞を早くも受賞するという快挙も。

そのシンボルな存在感は、インテリアにも及ぶ。部屋の緑を自を感じさせない「パノラマ」仕上げ、夜間の「ライティング」にまで自配りする「デザイン」も素晴らしいが、中でも居住性は頭ひとつ抜けた印象。座った時に自然に骨盤を立てて頭部が揺れにくい姿勢を促すシートから、身体が触れた時に「心地よい」と感じる角度や触感が追求された「アームレスト」まで、人間工学面でも次世代思想を貫く設計は圧巻。このあたりも、ぜひ試乗で確認いただきたい。

最後に、マツダの革新性を物語り象徴的な「ポイント」として、「音」についても紹介しておく。これも乗り込むと分かるのだが、スピーカーがドアのあの位置に付いていないのだ。音響の効率と音質を計算した結果、これまで不動と思われていたオーディオ機器のレイアウト自体を車両設計時点でまで過目見直

現在のマツダの充実を象徴する2つの数字、『3』と『6』が描く「新章」。

My Favorite Life Style



東北4県で37店舗を展開中。
試乗は、「東北マツダ」各ショールームで。

メイドインジャパンが世界的に根付いた自動車市場。いまやその一翼を担うマツダの歴史は、1931年にまで遡る。その技術の先鋭性は、3輪トラックを手がけた前身の「東洋工業」時代からの伝統だ。クラス最高性能と最大積載量の実現、エンジンを含む各種部品の国産化、そして自動車史でも重要なマイルストーンのひとつとなったロータリーエンジン…。『マツダ3』や『マツダ6』は、革新に彩られてきたマツダにとって、まさに新章となる1ページ。その高揚感、全国の販売店で味わえる。

安心と信頼の老舗ディーラー

「東北マツダ」は、秋田、岩手、宮城、山形の4県を股にかける正規ディーラーだ。長年にわたりマツダ車を知り尽くす高度なサービス技術を背景に、購入はもちろん車検点検整備でも「安心」「安全」「快適」を最優先するネットワークを構築している。各店舗にはサービス診断機「MIDS」を配備し、マツダ最新の電子コントロールシステムの点検診断も即応可能に。メンテナンスパッケージプランの販売から独自の愛車コーティングサービスまで「任でできる安心感」で非常に評価が高い。全店に試乗車を配置し、低金利プランなどお得な情報も多数。試乗会も随時開催中なのでぜひ店頭へ出かけてみよう。事前準備として、マツダのニューズレター登録もお忘れなく。



長町店



秋田本店

宮城事業部	
佐沼店	TEL.0220-22-3011
古川店	TEL.0229-23-1171
古川カーランド	TEL.0229-21-8680
石巻店	TEL.0225-23-1445
富谷店	TEL.022-348-0310
泉店	TEL.022-372-1311
南吉成店	TEL.022-303-2930
多賀城店	TEL.022-361-1360
日の出店	TEL.022-236-3211
小田原店	TEL.022-297-2111
六丁目店	TEL.022-287-3151
長町店	TEL.022-304-4533
名取店	TEL.022-384-1241
柴田店	TEL.0224-55-5211

山形事業部	
酒田店	TEL.0234-23-2211
新庄店	TEL.0233-22-6844
鶴岡店	TEL.0235-22-8315
寒河江店	TEL.0237-86-0211
天童店	TEL.023-654-1060
北町店	TEL.023-684-6021
山形本店	TEL.023-622-9170
南陽店	TEL.0238-43-5111
米沢店	TEL.0238-37-3105

秋田事業部	
大館店	TEL.0186-42-3815
能代店	TEL.0185-52-7113
秋田北店	TEL.018-845-3211
中央店	TEL.018-862-5151
秋田本店	TEL.018-823-7561
大曲店	TEL.0187-63-2323
横手店	TEL.0182-32-3401
本荘店	TEL.0184-22-1447

岩手事業部	
上堂店	TEL.019-641-3633
都南店	TEL.019-636-0611
花巻店	TEL.0198-23-2777
北上店	TEL.0197-68-2211
水沢店	TEL.0197-24-2028
一関店	TEL.0191-23-6219

ビズスタ読者アンケート



※写真は参考イメージです

読者アンケートにご回答の方に抽選で東北マツダより素敵なプレゼントが当たる
ワイン6,000円相当を10名様

■プレゼント応募方法
①下記URLまたはQRからプレゼント応募アンケートページへアクセス②応募フォームのアンケートに必要な事項を入力③応募完了。プレゼントの当選者の発表は、商品の発送をもって代えさせていただきます。

■読者アンケートPC版
<https://questant.jp/q/tohokumazda03>
■プレゼント応募締切:2019年9月20日(金)まで



読者アンケートはこちら▶▶▶